

今後に向けての学校の考え（学校関係者評価を受けて）

1. 進路について

- ・ 高校は総合選択制という教育システムにより、大学進学者、短期大学と専門学校進学者、就職者が3分の1ずつという進路実績である。多様な進路希望を実現させるこのスタイルを維持しつつも、それぞれのレベルアップを図っていくことが課題である。大学進学については、系列校の静岡福祉大学、提携校の横浜薬科大学を中心とし、昨年度合格の上智大学、早稲田大学といったレベルの大学や国公立大学への進学を目指す。就職では、資格の級を上げ業種や職種の幅を広げていく。
- ・ 中学は公立高校進学において一定の成果が出た一方で、大成高校への進学者も増加した。生徒本人が希望する高校に進学させるための進路指導を基本に行っていく。

2. 学習指導・ICT教育について

- ・ プロジェクターの整備以来、利用頻度が増えているものの、教員によって個人差もあり、端末の整備もまだ十分ではない。国が推進しているGIGAスクール構想を取り入れ、情報通信ネットワーク環境施設の整備と、端末機器やアプリの選定、中学校舎のプロジェクター設置を今年度中に行う。
- ・ 生徒に、目標をもって主体的に授業・家庭学習に取り組ませるために、ICT教育の活用を積極的に導入していく。

3. 生徒の学校生活について

- ・ 中学高校とも概ね落ち着いてはいるが、常に注意を払う必要がある。特に中学生は多感な成長期でもあるため、心の成長に主眼を置き、保護者との連携を取りながら気を配っていく。高校生には、高校生としてのマナーや社会的な責任を意識する指導を徹底していく。いじめ防止対策アンケート、ネット依存度テスト、学習生活実態調査、授業アンケートなどの結果も十分活用しながら指導していく。生活の乱れ、心の悩み、いじめ等を未然に防ぐこと、起きてしまったら即対応することが重要である。

4. PTA 活動について

- ・ 教員が PTA 活動に積極的に関わることが、保護者の PTA 活動への理解や参加につながっていくと考える。

5. 安全対策と危機管理について

- ・ 意識が不十分なことによる問題が昨年度見られたため、意識を高く保つために常に点検していく必要がある。

6. 地域防災について

- ・ 鷹匠の自治会と話し合いを設け、学校としての役割を確立し、災害に対する準備をする必要がある。

7. 働き方改革について

- ・ 学習指導、進路指導、生徒指導、部活動指導など、勤務時間後に関わらざるを得ない教育活動も多く、効率化できない業務もある中で、一律に業務の軽減を図ることは難しいが、制度の改善やお互いの協力や声掛けなどに取り組んでいかなければならない。中学のスターライトクラス（夜間授業）については、担当教員の負担を少しでも軽減するための措置を講じていく予定である。